第2889号　（毎週火曜日発行）　溶接ニュース　第3種郵便物認可

ものづくり熱血漢

感極まれば人目もはばからず涙を流し、時には鉄拳を振るうことも辞さず、従業員と真正面から向き合う「ものづくり熱血漢」。若年層にものづくりの魅力を伝えようにも、「薄給」「人材募集に応募ゼロ」などの負の連鎖から、次世代が育たない危機感が広がる中、日本人は本気になって次世代の技能者を育てなければならない時機を迎えている。危機感を共有し次世代の教育・指導にあたる熱血漢に取材すると、あらためて伝承する立場の重要性が浮き彫りとなる。

茨城アーク

代表取締役社長　**井手上　浩**氏

体ぶつけ合い士気高揚

「溶接を教えるのが好き。聞かれれば聞かれるほど教えたくなる」と語るのは茨城アーク（水戸市）の井手上浩社長。ここ数年、同業者の高齢化に危機感を募らせながら「溶接は技術を習得する」手上社長は、「さぼっても当社にもプラスになので、喜んで協力させてもらっている」

井手上社長は工業高校の実習で初めて溶接を体験し、在学中にアーク溶接特別教育を修了するが、「当時はそれほど興味がなかった」と振り返る。

「父親は日立製作所関連の工場の機械技術職で、家でよく仕事の話をしていた影響もあり、同じ方向へということで工業高校機械科に進学した。卒業後、就職した工場で久しぶりにアーク溶接に携わり興味を持ち始めた」

ただ、就職した工場は主にエスカレーターを製造していたため、「取り付け、サンダーなどさまざまな工程がありアーク溶接に専念できなかった。当時、鉄工所に勤める知り合いから一緒に仕事をしないかと誘われ、23歳で鉄工所に転職した」

鉄工所で初めて経験した半自動溶接に感動し、「UTを適用しても問題ない溶接ができるようになり、様々な経験を積むうち今度は独立したい気持ちが強くなった」。その後鉄工所を離れ、「独立を流し本気で説教」するなど自他ともに認める熱血溶接職人だ。

◇

井手上社長は茨城県鐵構工業協同組合の依頼を受け、2010年度から鐵構技術センター（龍ケ崎市）で開く研修にポランティアで参加し溶接を教えている。

「2010年11月まで計4回指導員を務めた。当社は組合賛助会員でもあるが、溶接に関する意識の向上を図るとともに、次世代の育成に熱心な組合の姿勢は、会員にも当社にもプラスになので、喜んで協力させてもらっている」

井手上社長は工業高校の実習で初めて溶接を体験し、在学中にアーク溶接特別教育を修了するが、「当時はそれほど興味がなかった」と振り返る。

「父親は日立製作所関連の工場の機械技術職で、家でよく仕事の話をしていた影響もあり、同じ方向へということで工業高校機械科に進学した。卒業後、就職した工場で久しぶりにアーク溶接に携わり興味を持ち始めた」

ただ、就職した工場は主にエスカレーターを製造していたため、「取り付け、サンダーなどさまざまな工程がありアーク溶接に専念できなかった。当時、鉄工所に勤める知り合いから一緒に仕事をしないかと誘われ、23歳で鉄工所に転職した」

鉄工所で初めて経験した半自動溶接に感動し、「UTを適用しても問題ない溶接ができるようになり、様々な経験を積むうち今度は独立したい気持ちが強くなった」。その後鉄工所を離れ、「独立を流し本気で説教」するなど自他ともに認める熱血溶接職人だ。

◇

井手上社長は茨城県鐵構工業協同組合の依頼を受け、2010年度から鐵構技術センター（龍ケ崎市）で開く研修にポランティアで参加し溶接を教えている。

「2010年11月まで計4回指導員を務めた。当社は組合賛助会員でもあるが、溶接に関する意識の向上を図るとともに、次世代の育成に熱心な組合の姿勢は、会員にも当社にもプラスになので、喜んで協力させてもらっている」

井手上社長は工業高校の実習で初めて溶接を体験し、在学中にアーク溶接特別教育を修了するが、「当時はそれほど興味がなかった」と振り返る。

自他ともに認める溶接職人

涙の指導で従業員引っ張る

「父親は日立製作所関連の工場の機械技術職で、家でよく仕事の話をしていた影響もあり、同じ方向へということで工業高校機械科に進学した。卒業後、就職した工場で久しぶりにアーク溶接に携わり興味を持ち始めた」

ただ、就職した工場は主にエスカレーターを製造していたため、「取り付け、サンダーなどさまざまな工程がありアーク溶接に専念できなかった。当時、鉄工所に勤める知り合いから一緒に仕事をしないかと誘われ、23歳で鉄工所に転職した」

鉄工所で初めて経験した半自動溶接に感動し、「UTを適用しても問題ない溶接ができるようになり、様々な経験を積むうち今度は独立したい気持ちが強くなった」。その後鉄工所を離れ、「独立を流し本気で説教」するなど自他ともに認める熱血溶接職人だ。

◇

井手上社長は茨城県鐵構工業協同組合の依頼を受け、2010年度から鐵構技術センター（龍ケ崎市）で開く研修にポランティアで参加し溶接を教えている。

「2010年11月まで計4回指導員を務めた。当社は組合賛助会員でもあるが、溶接に関する意識の向上を図るとともに、次世代の育成に熱心な組合の姿勢は、会員にも当社にもプラスになので、喜んで協力させてもらっている」

井手上社長は工業高校の実習で初めて溶接を体験し、在学中にアーク溶接特別教育を修了するが、「当時はそれほど興味がなかった」と振り返る。

自他ともに認める溶接職人

涙の指導で従業員引っ張る

「父親は日立製作所関連の工場の機械技術職で、家でよく仕事の話をしていた影響もあり、同じ方向へということで工業高校機械科に進学した。卒業後、就職した工場で久しぶりにアーク溶接に携わり興味を持ち始めた」

ただ、就職した工場は主にエスカレーターを製造していたため、「取り付け、サンダーなどさまざまな工程がありアーク溶接に専念できなかった。当時、鉄工所に勤める知り合いから一緒に仕事をしないかと誘われ、23歳で鉄工所に転職した」

鉄工所で初めて経験した半自動溶接に感動し、「UTを適用しても問題ない溶接ができるようになり、様々な経験を積むうち今度は独立したい気持ちが強くなった」。その後鉄工所を離れ、「独立を流し本気で説教」するなど自他ともに認める熱血溶接職人だ。

◇

井手上社長は茨城県鐵構工業協同組合の依頼を受け、2010年度から鐵構技術センター（龍ケ崎市）で開く研修にポランティアで参加し溶接を教えている。

「2010年11月まで計4回指導員を務めた。当社は組合賛助会員でもあるが、溶接に関する意識の向上を図るとともに、次世代の育成に熱心な組合の姿勢は、会員にも当社にもプラスになので、喜んで協力させてもらっている」

井手上社長は工業高校の実習で初めて溶接を体験し、在学中にアーク溶接特別教育を修了するが、「当時はそれほど興味がなかった」と振り返る。